



皆さん、絵本は好きですか？絵本には沢山の魅力が詰まっています。今年度は、絵本に関する書籍を活用しながら《絵本について》ちょこっとお伝えしていきたいと思っています。



8月の絵本紹介



『さかながはねて』

中川ひろたか文・森あさ子絵・世界文化社

人気の手遊び「さかながはねて♪」の絵本バージョンです。ねこ、いぬ、ぞう…と色々な動物が登場します。そして、さかながはねてぴょん！とその動物達の頭や目などにくっつきます。くっついたら何になるのかな？とワクワクします。繰り返しのリズムが楽しめますよ。色彩豊かな絵も魅力的です。

『かにこちゃん』

きしだ えりこ作・ほりうちせいいち絵・くもん出版

【しおまねき】という種類のカニの「かにこちゃん」。どちらか一方のハサミが大きいのが特徴です。そのかにこちゃんの、海辺の1日をリズムミカルな文章と共に楽しめます。燃えるような赤い夕日の場面や、かにこちゃんの“すこすこ”と歩く音が個人的にはおすすめです。

【私たちおとなは、あまり目先のことにとらわれず、できるだけ絵本やお話を読んでやり、あとは子どもの力を信じて、ただ、見守っていればいいのでしょうか。ほんとうのすぐれた絵本は、私たちが何も言わなくても、子どもの心に静かに浸透し、“よいもの”をもたらしてくれるのですから】

～『絵本の記憶、子どもの気持ち』山口 雅子 福音館書店より～

“子どもの力を信じて待つ”これは、子育てのテーマともいえるのではないのでしょうか。子育てには完璧なマニュアルもなく、こうしたらすぐにこうなる、という事は少ないと思います。だからこそ、しんどくなる事もあるかと思いますが、日々の関わりが着実に子ども一人ひとりの中に浸透している事は、事実です。そして、その子の持つ力と共に、時間をかけて開花していく…小さな種が土を肥やし、水を注ぎ、太陽の光を当てる事で大きく成長するように。その土、水、太陽の役割を大人がしているわけですね。そして、絵本も同じように、読んですぐに変化があるわけではないですが、確実に心に種を植えていると思います。読んでくれる大好きな人の声、触れ合うあたたかさといった、かけがえのない経験が大きな肥やしとなり、心が育つと思うのです。大人になって絵本を手にとった時に、母の声が聞こえてくる経験をした私にとって、それは体感として感じています。

